

会長メッセージ

「自律自助の精神で 活力ある毎日を目指して」



総本部会長 地藏 哲皚

令和3年も3か月が過ぎ、桜花爛漫の好季節となりましたが、皆さんいかがお過ごしですか。この一年コロナ禍に苛まれ、生活環境が一変してしまい、ウイルスとの共生の為に「社会的距離（ソーシャル・ディスタンス）」、人と人との距離をあけて接触を避けなさい、三密対策でマスクの着用が必須と教えられて、今やどこでもマスク姿が当たり前になりました。WHOは「身体的・物理的距離（フィジカル・ディスタンス）」であって、人と人との心の繋がりを避けるもので無いと発信していますが、素顔を隠したマスク姿は表情が伺えずなんとなくよそよそしく感じています。私達関吟の吟詠活動もそうです。今までは当然のように教室、教場、支部単位で、共に

支え合って目標に向かって一緒に行動をして成果を上げ、共に楽しみ、喜びも分かち合ってきたことが、行動が制限され集まることすら制約されると、話し合って解決する場面が難しくなり、コミュニケーションギャップからすれ違いが生じ、残念な結果になる事案が散見されました。

コミュニケーションに関する米国のある心理学者が発表した実験結果ですが、人は相手が発信したメッセージを受け止めるに当って最もインパクトが強いのは「顔の表情」で55%、次が「声の調子」で38%と続き、「言葉の表現」は7%に過ぎないというのです。顔を合わせての話し合い、真心込めての話し合いがいかに大切かを教えています。またまさ